

# 中央復建コン 管理技術者CIIM講習 「原則適用」に照準



2023年度から国土交通省の直轄工事全案件で原則BIM/CIIM適用されることを受け設計業務での活用が一層求められる中、中央復建コンサルタンツは管理技術者向けに社内講習会を実施するな

ど、対応を急いでいる。

11月24日、大阪市の本社内で開かれた20年度第4回CIIMマネジメントミーティングには5部門（計画系・道路系・鉄道系・構造系・環境防災系）の管理技術者と、同社CIIM推進室担当者が出席した

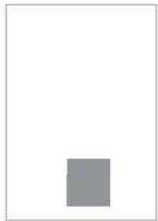
写真。

始めに各部門の担当者がBIM/CIIM適用の最新の動きについて報告した。また土木知識を持った3次元CADオペレーターの育成など、人材確保に関する意見や要望も寄せられた。

新技術に関連する報告ではMRホロレンズや簡易3次元

測量システムといった最新ICT機器の活用について話題提供があった。このうち簡易3次元測量システムはiPad Proに搭載されている「LiDAR」を使った点群計測装置で、今後固定レーザー scannerとの精度比較をしながら実案件での適用を予定している。参加者からは「災害発生時の現地踏査に使える」といった声があがっていた。

マネジメントミーティング終了後にはCAD技術者向けの「テクニカルミーティング」も開かれた。司会進行を務めた森博昭経営企画室長兼CIIM推進室長は「人材育成と生産プロセスの改革に取り組むことで、将来的には優秀な人材の獲得や離職の回避、業界の活性化などにもつながっていく」と話す。



建設通信新聞

2020年12月03日 009面 01版 No.07